

備前西大寺地名考 金山の考察

日本先史古代研究会会員 丸谷憲二

1 はじめに

私が住む町は金山団地町内会である。団地の裏に金山と呼ばれる小さな丘陵がある。現在、金山の大半が岡山学芸館高校(岡山市東区西大寺上1丁目 19)の敷地になっている。この金山について考察したい。金山に関する論文は山陽新報に、明治 41 年 3 月 9 日、16 日、23 日の 3 回連載された沼田頼輔氏(1867-1934)の『金山の古今』のみである。沼田頼輔氏とは西大寺高校の前身、西大寺町立高等女学校の初代校長である。退官後、明治 44 年から山内侯爵家史編纂所主任となり、大正 15 年「日本紋章学」で学士院恩賜賞を受賞している。

2 金山の読み

金山の呼称に 3 種ある。「かなやま」「かねやま」「きんざん」である。「きんざん」とは「金を産出する鉱山」である。「かなやま」も「金属鉱石を掘り出す山。鉱山。近世の金銀銅山などの総称」と『大辞林』にある。

3 沼田頼輔著『金山の古今』の要点

3.1 貝塚の遺跡

金山の貝塚は余の発見に係りしも惜い哉、高等女学校の敷地に係り校舎建築のために、その遺骸を一掃せしが故に今はこれを知ることが得ず。ただ同校理科教室の背面築地の付近に僅に貝殻の散点せるを見るのみ。

3.2 縄文土器

当時余は其の遺跡中より縄文土器の一片を獲てこれを珍襲せしも、今はこれすら紛失して見るを得ず実に惜むべきなり。

3.3 古墳

この古墳も亦高等女学校の敷地に属し校舎建築の為に偶然発見せしものなれども往時既に何人かこれを発掘してその石廓は既に破壊せられ巨大なる天井石は運び去られて両側の石壁も亦既に全形を失ひその位置も著しく変りたれど埋葬せられたる敵瓦等の比較的完全のもの多かりしは不幸中の幸福なりき。・・・古墳のありし位置は第一号校舎一学年教室の東にありて眺望絶景なれば所詮謂「朝日さし夕日かがやくてふ」当時の理想的兆域にも適當する地形なるのみならず他に古墳の存在を認めざれば少なくともこの古墳の大化新制以前に係るものたるや疑なしとす。

3.4 八幡山城

『隠徳太平記』巻五十三に「如此て岡山の城には己れ遷り居て沼城には舎弟春家を置き、西大寺の八幡山には忠家を処てけり云々」・・・『隠徳太平記』に見えたる西大寺の八幡山といふはこの金山を云へること勿論にして同時に宇喜多氏の深謀熟慮あることを察すべし。

『隠徳太平記』は、戦国時代から安土桃山時代に及ぶ毛利氏の制覇を中心とした戦記である。原本は

81 卷 42 冊、毛利藩の支藩・岩国吉川家の老臣香川正矩が草稿を纏め、次男の景継が完成させた。完成は元禄八年(1695)で刊行は正徳二年(1712)である。

下巻五十三を三好基之氏は『新釈隠徳太平記』に「浦上宗景並びに宇喜多直家の事」とし、「こうして、岡山の城には自分が移り、沼の城には舎弟春家を置き、西大寺の八幡山(同市西大寺金山)には忠家を置いた」と説明している。

4 東山寺松寿院と金山八幡宮

金山八幡宮(岡山市東区西大寺上1-19-10)の通称名は金山様(カナヤマ)である。JR赤穂線西大寺駅から西へ約500m、氏子は岡山市浅越山根である。祭神は『西大寺町誌』には仲哀天皇、応神天皇の2神、『上道郡誌』には仲哀天皇、応神天皇、神功皇后の3神、岡山県神社庁は仲哀天皇、素盞鳴尊の2神としている。康保年間(964~968)に岩清水八幡宮(京都府八幡市八幡高坊30)を勧請。昭和22年12月22日火災。祭典は10月6日例祭、5月13日春祭、7月第2土曜日夏祭である。境内坪数2075坪。

『備前記』(1700~1717年成立)に、浅越村「村東ノ宮山ニ金山八幡宮、社領高五石、・・・村東ニ真言宗、富海山東山寺松寿院ト云寺アリ、寺中ニ加納院、寺領高十五石、本寺、高野山多門院、本尊観音、此寺地美景不レ斜」とある。『備陽記』(1721年成立)には「備前国奥上道郡 寺中一軒 加納院 浅越村之内高二拾石。私ニ曰上ノ高之内五石ハ同村・・・金山八幡宮社領祠官取来ル者也 延宝二(1674)二月朔日 御黒印 東山寺」とある。御黒印(黒印状)とは、戦国時代からの将軍・大名・旗本などが墨を用いて押印した上で発給した文書である。奥上道郡に注目したい。



金山八幡宮



富海山東山寺松寿院 墓地

5 金山八幡宮の前の祭神 兵主神

『西大寺町誌』の村社 金山八幡宮の説明に「『吉備前秘録』によると、最初兵主(ひょうず)を祀っていた」とある。備前国領国地誌である『吉備前秘録』の成立は1740~1748年であり著者不明である。『吉備前秘録』には「金山。兵師とも云ふ。中野村の北西大寺に近し。此山に八はたの宮あり。」と有り、校註(校訂した結果与えられる注釈)に「兵師は延喜式神名帳に見えたる兵主神社と同一のものなるべし。兵主は史記に見えたる兵主と同一のものにして蚩尤(しゅう)を祀りたる漢神ならんか。」とある。

兵主神(ひょうず)とは、『史記・封禪書』の「天主・地主・兵主・陽主・陰主・月主・日主・四時主」の八神の一とされる武神名である。『史記』(紀元前91年頃成立)は、前漢の武帝の時代に司馬遷によって編纂された中国の歴史書である。正史の第一に数えられる。二十四史のひとつである。封禪(ほうぜん)とは帝王が天と地に王の即位を知らせ、天下が太平であることを感謝する儀式である。『史記・封禪書』は、古代中国を理解するために不可欠な文献である。

於是始皇遂東遊海上，行禮祠名山大川及八神，求僊人羨門之屬。八神將自古而有之，或曰太公以來作之。齊所以為齊，以天齊也。其祀絕莫知起時。八神：一曰天主，祠天齊。天齊淵水，居臨菑南郊山下者。二曰地主，祠泰山梁父。蓋天好陰，祠之必於高山之下，小山之上，命曰「時」；地貴陽，祭之必於澤中園丘云。三曰兵主，祠蚩尤。蚩尤在東平陸監鄉，齊之西境也。四曰陰主，祠三山。五曰陽主，祠之罘。六曰月主，祠之萊山。皆在齊北，并勃海。七曰日主，祠成山。成山斗入海，最居齊東北隅，以迎日出云。八曰四時主，祠瑯邪。瑯邪在齊東方，蓋歲之所始。皆各用一牢具祠，而巫祝所損益，珪幣雜異焉。

『延喜式神名帳』には大和国城上郡の穴師兵主神社をはじめ 19 社(21 座)の兵主神社がみえる。兵主神社は但馬国(兵庫県北部)を中心に山陰道に集中している。天日槍(アメノヒボコ)を祀る出石神社(兵庫県豊岡市出石町宮内)を取り囲むように重要路に祀られている。

兵主神(ひょうず)は、黄帝と最後まで戦った諸侯とされ、漢の高祖も蚩尤(しゅう)を祀った。管仲の著書『管子』に、兵主神とは兵権を握る者、もしくは軍の指揮官を意味しており、中国における兵主神は軍神・武神の性格を有する神であった。蚩尤(しゅう)とは三皇五帝のうちの一、炎帝神農氏の子孫とされている。兵器の発明者とされ霧をあやつる力があつた。岡山市内では県道 74 号倉敷飽浦線「阿津東」バス停前に兵主神社(岡山市南区阿津 2783)がある。天皇山鎮座、祭神は素盞鳴命である。

5.1 弓月と兵主神

内藤湖南氏(京都帝国大学教授・東洋史)は、「奈良県三輪山傍の穴師の弓月嶽にある大兵主神社(奈良県桜井市穴師)は『史記封禪書』に、秦の始皇帝が山東地方で祀っていた「天主(天の神)、地主(地の神)、兵主(武器の神)、陰主(陰を知る神)、陽主(陽を知る神)、月主(月の神)、日主(太陽の神)、四時主(四季の神)」の八神のうち根本尾神である兵主神を祀る神社だから秦氏の祖の弓月君と結びつく」としている。兵主神は秦氏によって日本に持ち込まれた。

5.2 秦氏の故郷、弓月国

秦氏の故郷・弓月国(クンユエ)は、中央アジアのカザフスタン内にあり、東の一部がシンチャンウイグル自治区にかかっている。天山山脈のすぐ北側に位置し、南にはキルギスタンが接している。昔、この地は、クルジア(Kuldja・弓月城)と呼ばれていた。

6 金鉱床指示植物

「正しい金鉱の探し方」が注目されている。1981 年、鹿児島県北部で「発見」された菱刈金鉱床は世界有数の超高品位金鉱床で、鉱床の鉱石は1トンあたり約 50 グラムの金を含有している。鉱床全体で 260 トンの金を埋蔵し、そのうち約 100 トンの金を産出している。これを発見した金属鉱業事業団(石油天然ガス金属鉱物資源機構 JOGMEC)では 1987 年から植物を用いた「植物地化学探査」を行っている。植物地化学探査では「ヤブムラサキ」が金鉱床指示植物として有効と報告している。「葉の部分に多くの金を含有する。」



■4%の金を含む超高品位金鉱石

ヤブムラサキ

『土壌分析』よりも広範囲に金鉱脈の存在を窺い知ることが容易である。ヤブムラサキは岡山県内に広く分布自生している。ヤブムラサキはクマツヅラ科の落葉低木。高さ約 2 メートル。葉は卵形または長楕円形で長さ 6～12cm、先はとがり、縁に鋸歯がある。表面に軟毛、裏面に星状毛を密生し、ビロード状の手ざわりがする。平成 22 年 5 月 27 日に十川氏(操山公園里山センター)に御案内いただき、操山に自生している「ヤブムラサキ」の葉を採取した。熊山でも採取している。

7 金山探索

たけちやすし

武智泰史氏(倉敷市立自然史博物館)は「江戸時代の文献における金山は、金山と銅山がある。」と教示される。金山が金山なのか、銅山なのかを自生植物により確認したい。

平成 22 年 6 月 6 日に「金山」の頂上付近の自生植物を撮影した。「オニヤブソテツ」が自生していた。



オニヤブソテツ 包膜は灰色で中心部は黒色

7.1 金山草

金鉱床指示植物は金山草と呼称されている。甲斐黄金村・湯之奥金山博物館(山梨県南巨摩郡身延町上之平 1787 番)に注目したい。「湯之奥金山」は、古くから「信玄の隠し金山」として知られていた。谷ロー夫氏の『武田軍団を支えた甲州金・湯之奥金山』に「中山金山の露天掘り跡」として、「中山の尾根ホウロク沢に残された露天掘り跡の一つ、金山草が群生している。風化鉱石の金は品位が高い。」「金のありかを教える金山草」として「オニシダを金山草ともよぶ。金のあるところを好み群生する。」とある。古代には植生を持って金属鉱床の有無を判断していたようである。

7.2 オニシダ「オニヤブソテツ」

魔除けのシダ、「オニヤブソテツ」はオシダ科のシダ植物である。房総半島や、伊豆、紀伊半島などの海沿いの岸壁に多くみられる。魔除けの植物として有名なのは、ヒイラギ、ナンテン、ヒイラギナンテン、ナナカマドである。『武田軍団を支えた甲州金・湯之奥金山』に「オニシダを金山草ともよぶ。金のあるところを好み群生する。」とある。オニヤブソテツが「金山草」であるという情報は他には無い。

8 浅越庄の中世史

浅越庄(アサゴエ)の初見は仁安二年(1167)である。

本家・領家は高山寺領(京都市右京区梅ヶ畑尾尾町 8・本家職)・天竜寺領(京都市右京区嵯峨天竜寺芒ノ馬場町 68・金剛院領、領家職)・長講堂領(京都市下京区本塩竈町)・皇室領・金岡東庄成光寺領。出典は陽明文庫所蔵兵範記裏文書、京都御所東山御文庫記録、高山寺古文書、鹿王院(京都府京都市右京区嵯峨北堀町 24)文書、備陽記引古文書、西大寺文書、塚本文書 遺文番号 へ 4840、へ 4841、へ 4842 永徳 3(1383)仁和寺宮置文に高山寺領＝永享 7(1435)義教、天竜寺金剛院に寄進(領家職)。

本家とは日本の荘園制における土地支配構造上、最上位に位置づけられる土地の名義上の所有者である。領家とは荘園を開発した開発領主から寄進を受けた荘園領主である。浅越庄は中央の有力寺社が荘園寄進を受けて領家となっていた。

9 まとめ

通称名の金山様が重要である。金山の山頂近くに金山草「オニヤブソテツ」が自生しており、金鉱床指示植物から金山と推定される。中国ではアルタイを「金山」と表記している。「金山」と表記されるアルタイ山脈は、金、鉄をはじめとする鉱物資源が豊富なことで知られている。金山古墳の埋葬者は秦氏の故郷からの渡来人であろう。

10 謝辞

「金山八幡宮」について、平成 24 年 5 月 3 日に天神八王子月尾宮(岡山市東区西庄 173)の松嶋章雄宮司にご教示戴いた。昭和 58 年より高島孝知宮司の後任として宮司職を兼務されている。「岡山学芸館高校の体育館の処に金山八幡宮の立派な本殿があった」とのことである。「鉱物資源探査技術開発調査 レアメタル賦存状況調査報告書」については、中西真理子氏(独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 金属資源情報センター)にご教示戴いた。

11 参考文献

- ①『金山の古今』沼田頼輔 山陽新報 明治 41 年 3 月 9 日、16 日、23 日
- ②『備前西大寺古文書』昭和 22 年 吉備文化研究会
- ③フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』
- ④『西大寺町誌』西大寺町誌編集委員会 1971 年 西大寺町誌刊行会
- ⑤『上道郡誌』大正 11 年 上道郡教育会
- ⑥『備前記全』平成 5 年 就実女子大学近世文書解読研究部 備作史料研究会
- ⑦『備陽記』昭和 40 年 石丸定良 日本文教出版(株)
- ⑧『吉備前秘録』『吉備群書集成』昭和 45 年 歴史図書社

- ⑨『日本荘園データ2』国立歴史民俗博物館 博物館資料調査報告書-6 1995
- ⑩『日本歴史地名体系 34 岡山県の地名』1998 平凡社
- ⑪『新釈 陰徳太平記』三好基之編著 平成2年 山陽新聞社
- ⑫『史記封禪書』 <http://blog.livedoor.jp/xuetui/archives/2299925.html>
- ⑬『史記 中國哲學書電子化計劃』<http://ctext.org/shiji/zh>
- ⑭『大兵主神社』 <http://www.d3.dion.ne.jp/~stan/txt0/n2hyz2.htm>
- ⑮『神道史大辞典』2004年 吉川弘文館
- ⑯『日本神名辞典』平成13年 神社新報社
- ⑰『吉備国の語源 黄蘗と羈縻(きび)政策 熊山遺跡出土品の考察』丸谷憲二
- ⑱『秦氏と弓月国の考察』丸谷憲二
- ⑲「重金属と植物」本浄高治『週刊朝日百科 植物の世界』1976 朝日新聞社
- ⑳『オニヤブソテツ』http://hananouta.nomaki.jp/page_thumb123.html
- 21『史記・封禪書』中國哲學書電子化計劃 <http://ctext.org/shiji/feng-chan-shu/zh>
- 22『インターネット博物館』<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/MINE2001/index.html>
- 23 独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 金属資源情報センター
『鉱物資源探査技術開発調査レアメタル賦存状況調査報告書(浮遊微量金属探査技術開発)・浮遊微量金属探査技術開発調査報告書』
昭和60年度 レアメタル賦存状況調査報告書(浮遊微量金属探査技術開発)
昭和61年度 レアメタル賦存状況調査報告書(浮遊微量金属探査技術開発)
昭和62年度 レアメタル賦存状況調査報告書(浮遊微量金属探査技術開発)
昭和63年度 レアメタル賦存状況調査報告書(浮遊微量金属探査技術開発)
平成元年度 レアメタル賦存状況調査報告書(浮遊微量金属探査技術開発)
平成2年度 レアメタル賦存状況調査報告書(浮遊微量金属探査技術開発)
平成3年度 レアメタル賦存状況調査報告書(浮遊微量金属探査技術開発)
平成4年度 レアメタル賦存状況調査報告書(浮遊微量金属探査技術開発)
平成5年度 鉱物資源探査技術開発調査報告書(浮遊微量金属探査技術開発)
- 24 『武田軍団を支えた甲州金・湯之奥金山』谷口一夫 2007年 新泉社
- 25 『甲斐黄金村・湯之奥金山博物館』<http://www.town.minobu.lg.jp/kinzan/index.html>